

調査内容

別紙 4.

1. 伊那市 ～ 住民主体の自治会活動について

(1) 概況

ア. 荒井区は、住民主体の区政 116 年の歴史を有する。

イ. 伊那市中心市街地に位置する。

ウ. 区民数 2,300 人 世帯数 1,300 世帯 12 の町内会

(2) 事業

ア. 行事件数 64 件 (1.2 件/週)

例 行者そば祭り そば発祥の地に因む

(3) 財務

ア. 独立採算 予算 3,000 万円

内訳 テナント収入 1,158 万円/28 年度

イ. 区費 8,000 円/年 町内会費 10,000 円

他地区では 山林所有等

(4) 運営組織

地区下部組織 12 町の婦人会・高齢者クラブ・子供会・社協

区長等 3 名の役員 2 名の専従職員 区長手当 4 万円/月

(5) 課題

ア. 駐車場ビル付き 8 階建て「いなっせ」の減価償却が今後負担になる恐れ。

イ. 会長等の理事任期 1 年。激務と高齢化で、後任探し難航。

(6) 感想 地域に根差した伝統ある行事展開や事業運営のため行政から独立した区独自の財産管理・運用が 1 世紀を超す生活の知恵として息づいている。

今後、高齢化の中で、行事や<いなっせ>をいかに継承していくかの重い課題が模索されており、コンビナートに依存の周南市とは別の課題解決が求められる。

なお、信州の名産売り場、温泉、織物体験、グランドゴルフ場等の複合施設には、地元、近隣住民の他、名古屋、東京からの観光客が集まる。

ふるさと納税額が、市民挙げての紹介作戦が功を奏し、60 億円と多額にのぼる。とくに新設の温泉券が人気。

これまでは、木曾山脈に遮られていたが、権兵衛トンネル(全長 4,467m)の開通で、木曾と伊那が至近距離となったため、新たな商圈と住民交流の場が発生している。

2. 上田市役所 ～「真田丸」誘致作戦について

(1) 誘致主体

- ア. 平成 20 年, NHK大河ドラマ誘致に向け、「大河ドラマ実現を願う会」の結成。10 年間の活動の中心は市民有志、その中に町内会・自治会、商工会、歴史研究グループ。
- イ. 行政は側面支援に徹する。市長のNHK詣と共に上田観光産業振興議員連盟 27/議員定数 30 名 によるPR活動

(2) 事業内容

- ア. 六文銭に因んで、666,666 人の署名を目指したが、結果は 80 万人を超えた。
- イ. 行政の主な役割は、パーキングの確保、特に観光ルートにそった市内の民間駐車場を指定。上田城に設置の旧市民館の展示場改装。市内の民間駐車場の借り上げ利用は、観光客の市内回流に効果的であった。
- ウ. 運営組織として、企画観光課と共に、実行部隊としてシティ・プロモーション室、大河ドラマ館を新設。庁内の土木、建築、教育委員会等の横断的組織を結集。

- (3) 課題 ブームは 2 年間で去ることを前提に、「ポスト真田丸」

作戦として、今後は、首都圏から 1.5 時間の優位性を活かす観光政策に力を入れること。

まず、大河ドラマ館は、大型駐車場に改装し、さらなる観光振興を目指す。ラグビー・ワールドカップの合宿地として手をあげる。

真田関係の全国の市町村と連携した観光政策に進むこと。

具体的には、真田家と縁のある全国 13 市町村と提携し、広域の観光振興を図る。例“真田街道”で群馬県の沼田市と協議中

(3) 感想

10年に及ぶ誘致作戦を、用意周到に、民間中心に粘り強く達成したことに感服する。

真田氏の上田在位は、40年に過ぎなかったが、今回の誘致作戦によって、上田の街並みや駅前の発展があり、真田家に対する市民を挙げての熱い想いが結集されたものと思われる。

周南市にも、真田の末子伝説の残っており、櫛ヶ浜の情報を伝えた。

3. 横須賀市 ～ 基地問題とその対策について

(1) 概況

横須賀市は、明治40年に市制施行、中核市。

人口40万人(減少率全国一)、面積は周南市の1/6。

アジア随一の海軍基地としての米軍第7艦隊の司令部および陸・海・空自衛隊、防衛大学と軍港として、横須賀市は、その特異性を有す。

その歴史は、江戸末期の小栗上野介の英断による造船所建造基地から始まる。

人口は、最盛期43万人から40万人と減少傾向にあるが、原子力空母R.レーガン(乗員3,500名)入港時には、整備点検等で最大4万人の米軍軍属が駐在する。

(2) 基地対策～『共存共栄』

ア. 安全対策 常時2万人の米軍軍属と5,200人の米軍施設日

本人従業員と地元住民との交流。

例 見回り隊 280回/11年 米軍司令も参加

基地解放 桜祭り等